漢方推進プロジェクト事業　（予算額：3,260千円）

議事５

本事業では、大和の生薬である「大和当帰」を中心とした成分、薬効、栽培品質評価、製品化への基礎研究を担うことで、
高齢化社会を見据えた「未病」対策及び健康寿命の延伸に寄与するほか六次産業化を目指すプロジェクト

大和当帰

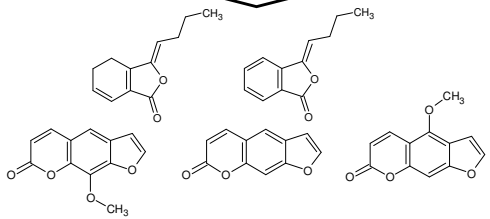
大和の新製剤開発事業

（予算額：853千円）

大和当帰を配合する医薬品等の新製剤創出では成分の確認試験、定量法が求められる。
また、成分量は、生薬の組合せ等により増強、減弱することが知られているが、多岐にわたる組合せがあり、その検証は十分でない。
そこで、新製剤開発で想定される生薬類との組合せによる成分変化や成分量の推移を検証する。

紫雲膏

大和当帰

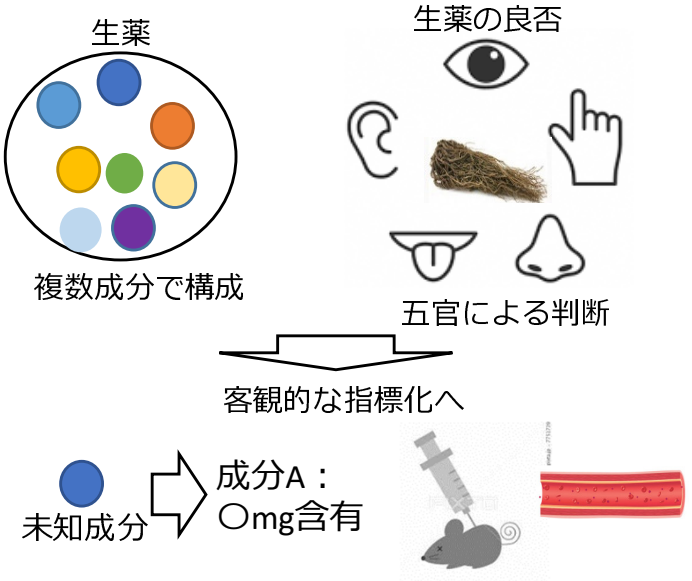


成分への影響を検証

大和の生薬の薬効研究事業

（予算額：1,415千円）

生薬は、複数の成分が相補的に作用するほかその良否は五官により判断されている。
そこで、熟練者の感覚による評価でなく、客観的な指標化を目指し、
大和当帰中の未知成分の同定と含有量の検証、動物、細胞組織実験により、指標成分の検証を行う。



国産生薬品質確保事業

（予算額：992千円）

大和当帰を含む生薬の国産化では、市場流通品との品質が同等であることが求められる。
また、増産に伴う生薬の保管について、虫害の防止等が必要となる。
大和当帰は、生薬の中でも特に虫害が発生しやすいため、冷所保管を行うことでその発生を抑える可能性がある。
この場合、通常の保管方法と異なるため、品質への影響についての検証を行う。

品質が同等かの検証